

三、〇二四（ニ比シ）一、〇一八（七分八厘）ノ騰貴ヲ見タリ

此ノ如ク米銅ノ市況ハ大正十四年ニ於テハ多少ノ起伏消長アリシトハ云ヘ漸次好化スルニ至リタル所以ノモノハ當業者カ戦後ノ供給過剰ニ鑑ミ極力生産制限ヲ行ヒタルト一方ニ於テハ歐洲財界ノ好變ニ伴ヒ對歐輸出カ増進シ加フルニ近來銅加工業就電氣事業ノ著シキ勃興ニ伴ヒ内地消費又旺盛ナリシ爲銅價伸擡ノ原因タル滯銅カ殆ト一掃セラレタルニ起因スルモノナリ即チ大正十四年十月ノ滯銅ハ七萬三千噸ニ過キスシテ之ヲ前年同期ノ十三萬七千噸ニ對比セハ實ニ六萬四千噸ノ激減ナリト傳ヘラル亦以テ米國銅界好變ノ狀勢一斑ヲ推知シ得ヘキナリ、而シテ常態ニ於テハ當然米銅ト同一步調ヲ辿ルヘカリシ本邦銅價ハ對外爲替關係ノ不安定ナル特殊材料ノ潜在スルアリテ米銅市價ノ一高一低ハ其儘之ニ反映セサリシト雖モ大體ニ於テ同一推移ヲ見、大阪市場平均相場（電氣銅百斤）ハ前年（四九八・〇二）ニ比シ二、〇七六（四分二厘）ノ騰貴ヲ示シタリ

三、石 油

大正十四年ニ於ケル石油市場ハ極メテ不振ノ裡ニ一年ヲ經過シ市價ハ前年ニ比シ原油製油共一割乃至三割見當ノ低落ヲ見タリ、而シテ之カ原因ハ石油ノ世界的中心市場タル米國ニ於テ各地トモ一般ニ増産ヲ見殊ニ本邦ト最モ密接ノ關係ニ在ル加州地方ニ於テ著シキ増産ヲ見タルト且同國新石油會社カ本邦ニ對シ販路開拓擴張ノ爲盛シニ安値賣込ヲ開始シタル等ニ依リ輸入著シク増加シ加フルニ内地產油又前年ニ比シ稍増加セル等供給夥シク増加セルニ拘ハラス財界不振ノ爲需要之ニ伴ハス玆ニ供給過剰ニ陥リタルニ因ルモノニシテ市況ハ年初ヨリ漸次軟調ヲ呈シ市價亦漸落ヲ告クルニ至リ殊ニ當業者ハ輸入牽制策トシテ人爲的値下ヲ爲シタル爲一層市價ノ低落ヲ誘致シ遂ニ前記ノ如キ崩落ヲ見ルニ至レリ。

鑛產物ノ市價

一、銀

月 次		大 阪 市 場 (一貫)		倫 敦 市 場 (一オンス)		紐 育 市 場 (一オンス)	
月	次	大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年
一	二	二五・八四	一六四・四七	三三・一九七	三三・五四九	六八・四四七	六三・四四七
二	一	二二・二〇	一六四・七一	三三・二四五	三三・五六五	六八・四七三	六四・三三九
三	一	二〇・四三	一六・四六	三三・九三五	三三・四八三	六七・八〇八	六三・九五七
四	一	一九・〇三	一八・五三	三三・七七三	三三・〇五	六七・八九九	六四・一三九
五	一	一九・三七	一九・八一	三三・七六	三三・八七〇	六七・五八〇	六三・五三四
六	一	二〇・五三	一九・三三	三三・八六三	三三・七五八	六八・一〇六	六三・六九〇
七	一	二〇・四三	一九・一〇	三三・九五四	三三・五〇九	六九・四四三	六七・一五九
八	一	二〇・九五	二〇・一七	三三・二六八	三三・二二三	七〇・二四〇	六七・五二九
九	一	二二・一八	二〇・五五	三三・九八三	三三・八三三	七二・五七〇	六九・三五〇
十	一	二二・五〇	二二・八三	三三・九七三	三三・三八七	七二・一〇六	六九・八三七
十一	一	一九・三三	二二・六七	三三・一五五	三三・七五	六九・三三	六九・二九
十二	一	一九・〇三	二五・三九	三三・八三五	三三・六二〇	六八・八九九	六八・〇九六
平均	一	二〇・三	一九・九三	三三・〇八八	三三・九六九	六九・〇五	六三・七八一

二、銅

月 次		大 阪 市 場 (電氣銅)		倫 敦 市 場 (一英噸)		紐 育 市 場 (電氣銅)	
月	次	大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年
一	二	五六・五〇	四六・三四	六六・〇五	六・二七三	一四・七〇九	一三・四〇一

東京洋鐵 (九鐵四分)		東京銑鐵 (釜石鐵炭一號)		米國銑鐵 (ビツバーク)	
大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年
四・六九	四・六五	六・〇〇	六・〇〇	二四・六四	二四・七六
四・六三	四・五五	六・〇〇	六・〇〇	二四・五一	二五・二六
四・五一	四・七三	五九・七〇	六五・〇〇	二四・〇六	二五・一四
四・四八	四・九〇	五九・〇〇	六五・〇〇	二二・八九	二四・五六
四・四〇	四・七三	五九・〇〇	六五・〇〇	二二・七六	二四・八九

平	十	十	十	九	八	七	六
均	月	月	月	月	月	月	月
四・四〇	四・三六	四・三三	四・三七	四・三七	四・二六	四・二六	四・三〇
四・六三	四・六三	四・五五	四・四八	四・五八	四・六三	四・五五	四・四八
五九・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	五八・〇〇	五九・〇〇	五九・〇〇
六四・〇〇	六三・〇〇	六三・〇〇	六三・〇〇	六四・〇〇	六四・〇〇	六五・〇〇	六五・〇〇
三三・三三	三三・七六	三三・六四	三二・三九	三二・〇六	三二・七六	三二・七六	三二・七六
三三・八八	三三・五二	三三・一三	三二・七六	三二・七六	三二・七六	三二・九六	三三・八九

月	次	大阪市場 (百斤)	倫敦市場 (一英噸)	紐育市場 (一封度)
大正十四年	大正十三年	大正十四年	大正十三年	大正十四年
大正十三年	大正十二年	大正十三年	大正十二年	大正十三年
三〇・五〇 ^四	一八・三〇 ^四	四一・四四 ^四	三二・五八 ^榜	一〇・一六九 ^仙
二七・八三	一九・二九	三七・九四四	三〇・五八九	九・四三八
二六・一六	三三・七一	三六・八〇四	三七・一六一	八・九一四
二三・九八	三三・七九	三三・七九一	三三・八一九	八・〇〇五
二四・〇八	三三・五三	三三・二八三	二九・四二六	七・九八五
二五・二三	三三・〇五	三三・四七九	三三・一三八	八・三三一
二五・三四	二一・三〇	三三・六九八	三三・九六	八・一五一
二六・八三	三三・三三	三六・一八八	三三・七八	九・一九三
二七・五一	三三・四八	三六・八八四	三三・〇三三	九・五〇八
				七・九七三 ^仙
				八・五五四
				九・〇一三
				八・三六三
				七・三六九
				七・〇三〇
				七・二一七
				七・八二七
				八・〇〇〇

十	十	十	平
二	一	二	二
月	月	月	均
二八・二六	二六・〇一	二四・一一	二六・三三
二四・三一	二六・四九	二九・三八	二二・八三
三九・〇一七	三六・八七三	三四・七三九	三六・四三九
三五・七二五	三九・四二五	四一・五八三	三四・四二一
九・五二三	九・七三九	九・三二〇	九・〇三〇
八・二三五	八・六八九	九・二〇七	八・〇九七

六、亞鉛

[illegible]

第五章 鑽產物ノ市況及市價

月次	二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 十 平											
	均	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
東山油田 (一石)	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇	一六・五〇
	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇	一六・二〇
新津油田 (一石)	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇	一四・三〇
	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇
東山油田 (一石)	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七	二六・二七
	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五	二八・〇五
新津油田 (一石)	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇	一三・〇〇
	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇

八、石 油

(原油)

月次	一 二 三 四 五				
	月	月	月	月	月
東山油田 (一石)	一四・二〇	一四・二〇	一四・二〇	一四・二〇	一四・二〇
	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇	一四・〇〇
新津油田 (一石)	一二・三〇	一二・三〇	一二・三〇	一二・三〇	一二・三〇
	一二・〇〇	一二・〇〇	一二・〇〇	一二・〇〇	一二・〇〇
東山油田 (一石)	一一・五〇	一一・五〇	一一・五〇	一一・五〇	一一・五〇
	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇
新津油田 (一石)	九・七五	九・七五	九・七五	九・七五	九・七五
	九・四〇	九・四〇	九・四〇	九・四〇	九・四〇

月次	六 月	七 月
揮發油 (一號新離新南)	二・〇〇	二・〇〇
燈油 (白蠟蠟新襪)	一五・二〇	一五・二〇
輕油 (赤金勝新襪)	九・七五	九・七五
機械油 (Cマシン新襪)	一四・〇〇	一四・〇〇
平均	一三・三〇	一三・三〇

九、石 油

(製油)

月次	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十 平											
	均	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
揮發油 (一號新離新南)	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇	一一・三〇
	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇
燈油 (白蠟蠟新襪)	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇
	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七	六・〇七
輕油 (赤金勝新襪)	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇	四・四〇
	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
機械油 (Cマシン新襪)	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇	五・九〇
	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇	五・〇〇

一〇、硫 黄

(函館市場一英噸)

月次		大正十四年		大正十三年		月次		大正十四年		大正十三年	
一	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	八	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇
二	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	九	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇
三	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	十	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇
四	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	十	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇
五	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	十	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇
六	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	平	均	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇
七	月	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	二	均	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇	五五・〇〇

第六章 鑛山事業ノ概況

(一) 各種鑛業ノ概況

●金銀鑛業 昨大正十三年十一月金價格ノ標準ヲ變更シテ以來其市價ハ概シテ二割方昂騰ヲ持續シ且銀市價ノ昨年ニ比シ平均壹貫拾圓ノ昂騰ヲ示セルコトハ共ニ金銀鑛業開發ノ機運ヲ促進セシメ產額ノ著シキ増加ヲ見タルノミナラス今後ノ發展ヲ期待セシムルモノ亦少カラス、即北海道鴻ノ舞鑛山ハ大通洞ヲ完成シテ一ヶ月金拾六貫銀四十二貫ノ生産能力ヲ有スルニ至リ、雄武威鑛山、福島縣高玉鑛山、宮城縣大谷鑛山ノ諸設備ノ新設又ハ改良ヲ行ヒ事業ノ進展ヲ計レル北海道富道洞爺鑛山、靜狩鑛山、新潟縣大谷鑛山、大分縣玖珠鑛山、鹿兒島縣芹ヶ野鑛山ノ増產ヲ行ヘル鹿兒島縣漆金山ノ新ニ事業ニ着手セル秋田縣小坂鑛山、茨城縣日立鑛山、大分縣佐賀關鑛山ノ買鑛ノ増加セル兵庫縣竹野鑛山、沖ノ浦鑛山ノ益々鑛況ノ良好ナル等何レモ本鑛業ノ將來益々多望ナルヲ思ハシムルニ充分ナリト云フヲ得ヘシ、此間靜岡縣土肥鑛山ニ於ケル排水困難ノ爲メ將來ノ進展ヲ阻止セラレタル同縣河津鑛山、大分縣鯛生鑛山、同縣馬上鑛山、鹿兒島縣山ヶ野鑛山、大良鑛山、串木野鑛山ノ鑛況不良ハ共ニ遺憾トス

本年七月日本銀行ニ於テハ銀買入ヲ中止シ爲メニ銀ノ滯貨夥シク各鑛山共ニ苦境ニ陥リタル情況ニアリシモ十二月大藏省カ輸出特許ノ方針ヲ採ルニ至リタル爲メ漸ク愁眉ヲ開クニ至レリ

●銅鑛業 前年來稍好況ニ向ヒタル銅市價ハ再ヒ軟弱トナリタルモ其大勢ハ幾分好調ノ氣運ニ向フカ如ク概シテ事業恢復ノ步調ヲ見ル即北海道國富鑛山、秋田縣花岡鑛山、尾去澤鑛山、荒川鑛山、岩手縣土畑鑛山、栃木縣足尾鑛山、石川縣尾